

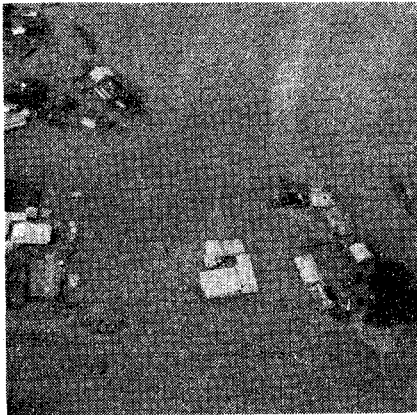
台風 22 号による被害状況

公共土木施設その他

9月20日マリアナ付近に発生した台風22号は、漸次発達しながら北上して、27日午前0時頃江ノ島付近に上陸、静岡、東京、茨城、福島を通過して金華山沖に抜けたのであるが、その間東海、関東、東北部に記録的な大雨をもたらした。そのため利根、信濃、北上、その他の大河川は相当の出水を見、中小河川でははんらんするものが続出した。台風の最低中心示度は877mbで、戦後最低であつたが、このことは記録的な大雨をもたらしたことおよび880~900mb台の気圧を維持した期間が2昼夜におよんだこととともに、この台風の大きな特徴を示すものである。

総雨量が200mmを超えたのは、東海、関東、東北にかけてであつたが、東京では401.2mm、伊豆湯が島では580mmに達した。なお東京の日雨量392.5mmは、気象庁開設以来の最高である。建設省および警察庁の発

狩野川流域のはんらん



表によると被害額は下表のとおりである。

国 有 鉄 道

北は北海道から西は関西まで16鉄道管理局管内に総計3276件発生した。このうち建物(国鉄所管)の倒壊、浸水または屋根、板べいなどの破損したもの2000件を除く残りは線路関係の被害で、特に線路が不通となつたり、除行運転するなど列車運転を支障したものが402件もあり、今年本土を襲つた他の台風と比較して、いかに被害が甚大であつたかが推測される。

台 風 名	総件数(含建物関係)	列車を支障したもの
33年11号台風	1612件	79件
” 17 ”	950 ”	93 ”
” 21 ”	1406 ”	235 ”
” 22 ”	3276 ”	402 ”

線路関係の被害中おもなものは線路が浸水したり、土砂が流入したり、バラストが流されたもの約300件、切取ノリ面が崩壊して線路を埋めたもの約300件、築堤が崩壊したもの約200件などで、特に復旧に困難をとまなる橋梁関係の被害が23件もあつた。

被害の特に甚大なカ所は、東京近郊電車線をはじめ、常磐線中村一駒ヶ嶺間築堤流出の状態で



東北本線、常磐線などの主幹線でそのほかにも伊東線、房総西線、成田線、久留里線、木原線、八高線、篠ノ井線、磐越西線、会津線、山田線、八戸線の一部が線路不通となつた。東京付近の電車運行は26日夕

(10月10日現在)

刻から乱れ初め、ひけ時の通勤者が足を奪われて各駅で混乱した。

被害総額は、応急費で10億円、恒久的復旧費で25億円を要するほか、払い戻しをふくむ客貨運賃の減収も19億円に達した。

伊豆箱根鉄道駿豆線

国鉄三島駅と修善寺を結ぶ延長19.9kmの駿豆線は線路の浸水土砂流入、流木堆積等延長10.4km、線路の流出2.1km、築堤崩壊0.4km、橋梁損傷6カ所、電柱倒壊電車線流出7.2km、レール流出3.8kmで被害総額約1億円におよんだ。応急

都府県別		東 京	神 奈 川	静 岡	埼 玉	茨 城	福 島	そ の 他	合 計
人的被害	死 者	30	94	657	1	5	8	31	826
	負 傷 者	48	123	671	2	17	18	95	974
	行方不明	12	12	381	2	—	4	30	441
建物被害(棟)	全 壊	81	279	278	3	57	95	421	1214
	半 壊	54	250	612	3	104	174	836	2033
	流 失	17	—	717	1	—	22	67	824
	床上浸水	76115	15464	7856	11563	292	5186	15677	132153
	床下浸水	253141	41283	8166	29981	1847	13524	41546	389488
	一部破損 非住家被害	26	171	799	—	798	3632	7062	12488
耕地被害(町)	水田	—	—	782	—	—	64	978	1824
	畑	—	—	276	—	—	56	562	894
公共土木施設	流失埋没冠水	—	—	276	—	—	56	562	894
	被害力所被害額(千円)	1197	234	2223	141	143	1000	2986	7924
		1007457	726522	4540693	254000	188250	1698323	3757988	12173233

復旧工事は、ただちに始められ、ダンプカー、ブルドーザー、パワーショベル等を使用して 10 月 7 日全線開通した。

伊豆長岡駅構内 11.300 km 付近（構内の土石、流木状況）



復旧工事には、国鉄および西武鉄道から、レール、分岐器、タイタンパー、トロリー、モーターカー、投光器、土工機械等の買却および貸与をうけた。

津軽・遠羽の 2 建設線完成（国鉄）

国鉄で目下建設中の新線のうち遠羽線（北海道）および津軽線（青森県）の 2 線が完成し、遠羽線は 10 月 18 日、津軽線は 10 月 21 日それぞれ開業された。

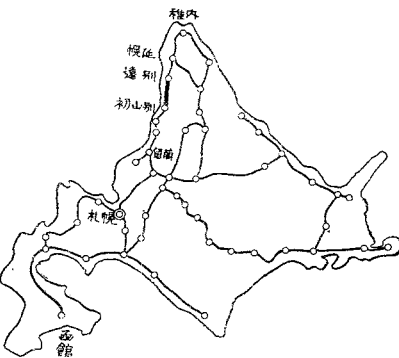
遠羽線

昭和 29 年築別—遠別間 38.4 km の建設に着手、昭和 32 年 11 月に築別—初山別間の 14.6 km を部分開業、引きつづき工事中であつた初山別—遠

別間の 23.8 km が今回完成し全通開業となるもので、これにより羽幌線と天塩線は連絡され留崩—幌延間 141.2 km を羽幌線と呼称することになった。建設費は約 11 億 6 000 万円 で 5 駅が新設された。

津軽線 蟹田—三厩間 28.8 km は戦時中工事を中止していたが昭和 28 年再着手し今回完成したものである。これにより昭和 26 年部分開業した青森—蟹田間 27.0 km と合わせ、青森—三厩間 55.8 km が全通した。建設費は再着

遠羽線路線略図



津軽線路線略図



手後 8 億 2 000 万円 で 6 駅が新設された。

国鉄の復線化工事進む

国鉄の 33 年度の復線化工事のうち、10 月 1 日のダイヤ改正までに開業したのは 6 区間 51.1 km で年度末までにはさらに 2 区間 8.7 km が完成する。

東北本線では瀬峯—新田間 (8.3 km)、前沢—水沢間 (10.2 km)、金ヶ崎—北上間 (6.7 km) の 3 区間 25.2 km が、使用開始したので、これにより、品井沼—盛岡間 (153.8 km) の 58% が復線化し、残るは有壁—石越間、一の関—前沢間、花巻—盛岡間 計 64.6 km である。

北陸本線は長浜—木の本間 (14.7 km) の開業により米原—木の本間 (22.4 km) が復線化した。また高岡—富山間のうち小杉—呉羽間 (6.6 km) が使用開始されたので、米原—富山間 (246.3 km) のうち、復線化区間は 29.0 km となり 12% が完成したことになる。

新津—上沼垂間は日本海岸線の一環たる新潟地区増強の線増工事があつたが、今回、上沼垂—亀田間 (4.6 km)

33 年度開業区間

線名	区間	キロ程	開業月日	記 事
東 北	瀬 峯—新 田	8.3	9.20	10月1日ダイヤ改正までに完成
	前 沢—水 沢	10.2	9.12	
	金ヶ崎—北 上	6.7	9.25	
北 陸	長 浜—木の本	14.7	9.30	
	小 杉—呉 羽	6.6	9.29	
信 越	上沼垂—亀 田	4.6	9.29	
	室 蘭	竹 浦—萩 野	4.9	10.10
函 館	石 倉—落 部	3.8	12.20	予 定
計		59.8 km		

が開業した。

なお、10 月以降に完成する区間は室蘭本線竹浦—萩野間 (4.9 km) で、これにより、竹浦—苫小牧間 (27.4 km) が復線完成するわけである。

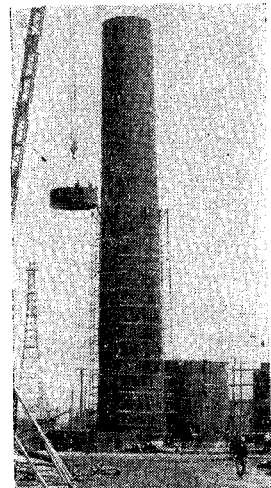
函館本線石倉—落部間は現在の山手 (15.4%線) を廃止して、平坦な海岸線が復線となる。

新名古屋火力発電所 煙突工事完成

中部電力の新名古屋火力発電所第 1 期工事の鋼製煙突がこのほど掘付を完了した。高さ 76 m、頂部径 4.50 m、下部径 7.00 m で中部地方最大の新名古屋火力発電所 (第 1 期出力 156 000 kW) の主要煙突につかわれる。

名古屋港にそびえる煙突の威容は中京工業地帯のシンボルともいえよう。

現場掘付中の煙突



土木工学ポケットブック

土木工学ポケットブック編纂委員会編

(JR版)

最近における土木建設の技術は、土質工学に、PC工法に、或いは工事の機械化にとあらゆる面で一変しつつあります。しかも総合技術の結晶としての建設工事には広く、機械、電気、気象、地質までの知識が要求されます。本書は土木工学全般については勿論、これら新技術、新工法までも網羅し、学習に、現場実務に必要な解説とデータを十分に収録したユニークな内容の決定版であります。

編纂委員長 早 大 教 授
幹 事 東 大 教 授・工博
東 大 教 授・工博
委 員 運輸省・計画課長・工博
日本国土開発・常務
運輸省・建設課
建設省・河川局
極東鋼弦・技師長・工博
芝浦工大助教授
小石川工高・建設科長
国鉄構造物設計事務所
三菱重工・橋梁設計課長
建設省・土木研究所・工博
国鉄構造物設計事務所
早 大 教 授
建設省・土木専門官・工博
運輸省新潟港工事事務所長
建設省・土木研究所・工博
関東地建道路部長・工博
中央大学講師
東 大 助 教 授

建設省・土木専門官
東 大 助 教 授
電源開発・土木部
運輸省港湾局・工博
間組技術局
東 大 教 授・工博
建設省・都市建設課係長
小石川工高・土木科
鉄道技術研究所
建設省・土木研究所
東 大 教 授・工博
建設省・土木研究所・工博
東京急行電鉄
日本国土開発
電源開発
運輸省第二港湾建設局

沼田政矩
丸安隆和
八十島義之
東 立 夫
石 綿 知 治
石 稲 田 裕
猪 股 俊 司
磯 崎 傳 作
川 藤 口 治
鎌 田 正 義
吉 川 秀 夫
後 藤 正 司
坂 野 石 信
白 田 原 文
谷 藤 正 二
竹 間 弘
徳 平 淳
内 藤 幸 三
南 部 正 郎
野 口 三 郎
比 田 正 一
藤 田 圭 隆
丸 安 宅 正
三 三 宮 政
村 幸 三
八十島義之
山 田 順 助
山 内 寛 治
山 崎 一 浩
吉 越 村 盛 次
吉 越 村 盛 次

11月上旬発売

A5判 約1200頁 上製

特価 2000円

(11月末日限り)

定価 2200円

(送料各 100円)

【内容見本をご請求下さい】

目 次

第1編 構造力学 第2編 土質工学 第3編 水理
学 第4編 土木材料 第5編 測量 第6編 製図
第7編 地質・地震・気象 第8編 コンクリート
及び鉄筋コンクリートの施工 第9編 コンクリ
ート構造物の設計 第10編 プレストレストコン
クリート 第11編 施工計画及び施工法 第12編
基礎工・トンネル・ダム 第13編 橋梁 第14編 鉄
道 第15編 道路 第16編 都市計画 第17編 港湾
・海岸・空港 第18編 河川・砂防 第19編 発電
水力 第20編 上下水道 第21編 土地改良 第22
編 公式・数表 業務参考資料 (約 140頁)

東京都千代田区神田錦町3の1(振替東京 20018)
京都市中京区河原町通四条上ル(振替大阪 69205)
大阪市北区堂島(毎日大阪会館)(振替大阪 10884)

オーム社